

SHIRAKOBATO

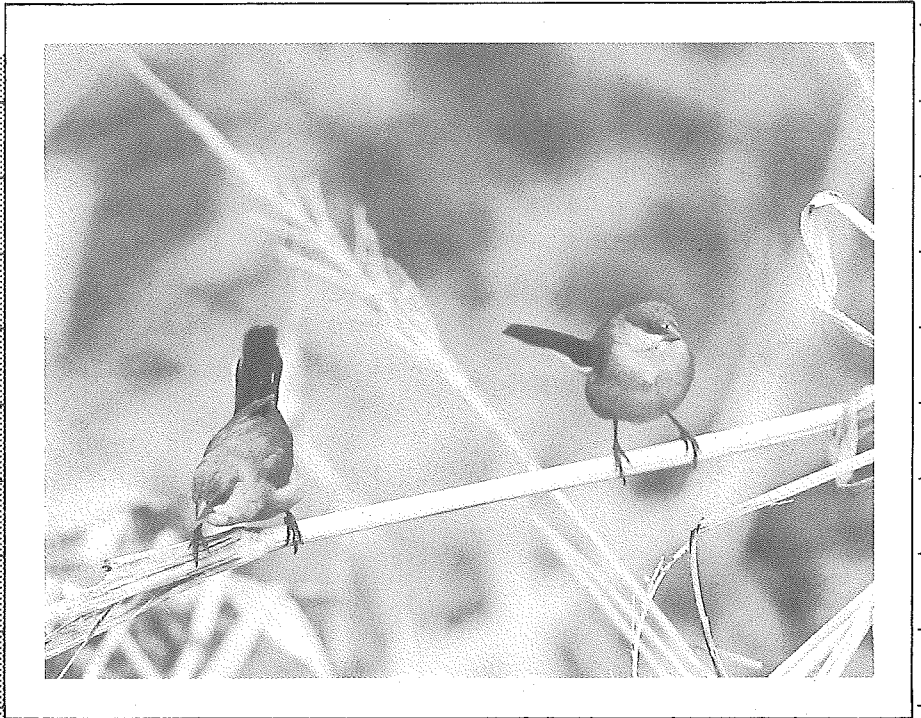
しらこぼと



2000. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 190

日本野鳥の会 埼玉県支部

我が家の釧路航路ファイナルクルーズ

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

私は海鳥ファンである。年に一度は支部の三宅島探鳥会の担当をしているわけだし、海ナシ県に住んでいるわりには船に乗って探鳥することが少なくはない。

さて昨秋、長年バードウォッチャーに親しまれてきた東京－釧路定期航路が廃止となった。すでに東京－苫小牧航路もなくなっていることから、寂しい思いをしている方も多いと思う。我が家では、廃止を惜しんで家族そろって釧路航路を往復することになった。

◇いざ出航

8月22日深夜、東京港フェリー埠頭より定期フェリー「サブリーナ」（約12,500トン）乗船。同行者は妻、長男と次女、それとS幹事一家の合わせて6人。我が家の長女は学校の関係で残念ながら留守番である。

ところで、私と釧路航路の付き合いはそう古いものではない。1995年6月に、元幹事のO氏と一緒に片道乗船したのが最初である。

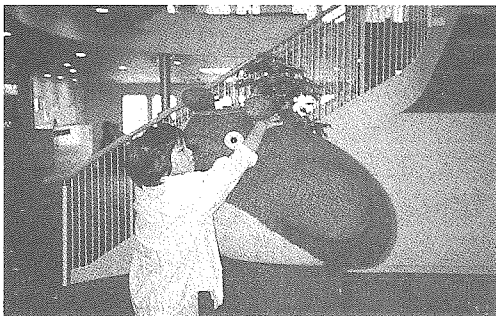
実はこの年3月にも、元幹事のT君がセットしてくれたことがあったのだが、出航当日になって船のエンジントラブルでまさかの欠航。5月には、三宅島航路でも探鳥会当日に船が欠航となり、このころの私は「あいつが来ると船が出ない」と揶揄されるありさまだった。そんな私を慰める（？）ためにO氏が企画してくれた探鳥旅行だったのだが、お蔭

様で欠航もなく、初めての釧路航路をたっぶり楽しむことができた。

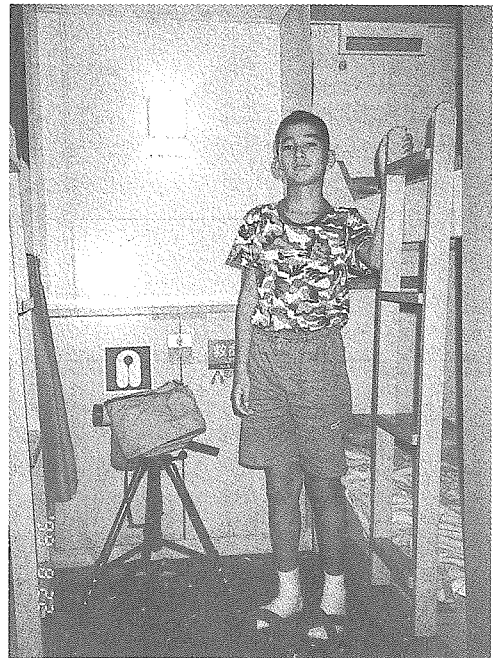
その後も往復と片道を1回づつ乗り、今回で通算4回目となる。長男も一昨年の暮れに私と片道乗っているのので、今回で2回目。残りの者は今回が初めての乗船である。

船内に入ると、まず特大のトトロの縫いぐるみが乗客を迎えてくれる。エントランスホールはちょっとしたホテル並みで、豪華客船には及ばないまでも、家族旅行を主催（？）する一家の主としてはいちおう面目を施すことができる。

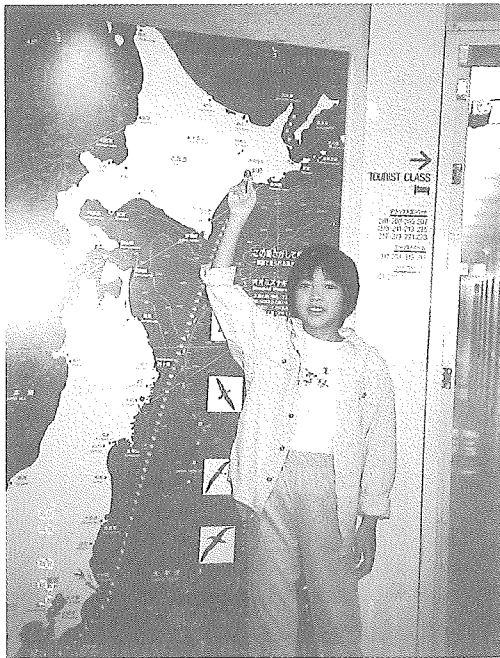
キャビンはいつもツーリストベッド（2等洋室）。一番安い大部屋だが、2段ベッド4組相向かい（定員8人）が1区画に仕切られており、しかもたいていベッドの上段は空いている。今回も1区画で家族4人だったので非常に快適であった。まずは缶入りの水割りをなめながら、明朝に備えることになる。



特大トトロがお出迎え……



ツーリストベッドはこんな感じ



船の現在位置を表示するボード

◇洋上探鳥

薄暗いうちに起床。船はまだ銚子沖。トトロの隣に地図のボードがあって、東京から銚路まで、地図上に並んでいる豆電球の点灯で現在位置を表示する仕掛けになっている。

デッキに出てみると、外は湿度が高く蒸し暑かった。天気は良さそうだが鳥影は乏しい。

外海を航海していると、普段は目にする事ができない海の生き物に出くわすことがある。私も、銚路航路に限らず、船の旅ではたくさんの思い出がある。クジラ・イルカ・アザラシ・オットセイなどの哺乳類、カジキマグロ・シュモクザメ・トビウオなどの魚類、ウミガメ。そんな出会いの数々を、今でも心ときめかせながら思い出すことができるのだ。

日がな一日、海を見ているとほんとうにいろいろなことがあるもので、自然の神秘、生命の営みの不思議にまで思いを巡らすことができるのも、片道31時間余の船旅のおかげ、といえるだろう。

しかしである、今回は鳥が出なかった。

ときおりオオミズナギドリが通るぐらいで、あとはトビウオ3種(?)、サメ・エイ・マンボウ・その他魚類、ちらっとイルカ。

◇食事と風呂

船内にはレストランと軽食コーナーがある。ともに決まった時間しか営業しないので、食べはぐったら大変だ。レストランの値段は安くはないけれど、旅の楽しさは食べること。家族そろって毎食レストランというのも船旅ならではの思い出である。

風呂は午後から。わりあい広い浴室で、何よりも海を見ながら湯舟につかれるのがいい。船の揺れとともにお湯が上下するのいかにも船の中らしい。

◇盗賊団、来襲!

24日朝7時半、銚路港入港。この日はレンタカーで霧多布へ。

25日正午、今度は「ブルーゼファー」に乗船。「サブリナ」とは同型の姉妹船である。

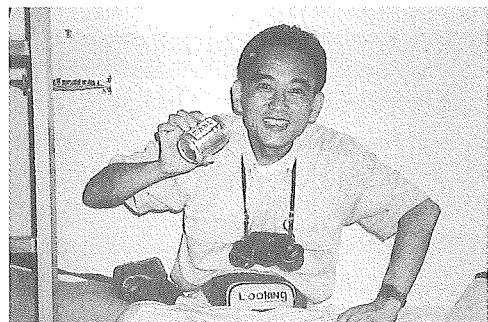
銚路港を出ると、オオトウゾクカモメが次々に姿を見せ始めた。そのうちシロハラトウゾク、クロトウゾク、ただのトウゾクまでもがいずれも小群で現れて「盗賊団来襲!」とデッキ上は大いに盛り上がる(ところで往復とも船内にバードウォッチャーは私たちだけしかいなかった)。

その後は、十勝港まではミナミオナガミズナギドリの群れが出たりしたが、その先、東京までは来たときと同じような状況であった。

東京港着は26日午後8時40分。

◇おわりに

野鳥との出会い、すばらしい感激のとき。そういう瞬間を家族と共有したいといつも思っている。この足掛け5日間の旅は、私にとってはそういう意味で大きな満足をもたらすものとなった。銚路航路が廃止になっても船旅と海鳥ウォッチングの楽しさは不滅である。



あ〜しあわせ♡

ヒメクビワカモメ

珍鳥中の珍鳥であるこのカモメが谷津干潟に現れ、多くのファンを楽しませてくれた。

英名は簡単、最初の発見者の名前からつけたものであり、やや物足りないかもしれないが、世界のこの名で通用している。

Ross' Gull または Ross's Gull

では、「Ross」について調べてみると、イギリスの探検家で北極の航海者、Sir James Clark Ross (1800-1862) であり、ウィリアム・パリーの第2回の北極探検の時に、1823年6月、カナダのメルビル半島でこのカモメ

の最初の標本を採取した。これが学会で認められて英名に Ross の名が付けられた。

約200年前の標本の採取とは、“shot the first specimen” (初めての標本を撃ち落としたり) とあるように、分からない鳥の単純明快な同定方法、いわゆる “Shotgun Method” (ショットガン方式) の採取である。

ズドンと撃ち落として机上で細かく検分する「ショットガン方式」は、アメリカではかなり長く使われた方法であったが、勿論現代では使われていない。

日本人には、やはり「ヒメクビワカモメ」の方が心地よく聞こえるのは不思議だ。

(松井昭吾)

春鶯囀 (しゅんのうでん)

内藤義雄 (鴻巣市)

春来むと人は言えども鶯の

鳴かぬかぎりはあらじと思う 壬生忠岑
暦の上では春になっていると思うけれど、まだ鶯が鳴いていないので、春とは言い難い。いわゆる春告げ鳥としての鶯の概念を表しているのでしょうか。

『しらこぼと』の鶯の初音の情報も、立春もとうに過ぎた2月の終りごろから3月の初めにかけてが多い。実際にその頃にならないと春の実感がわかないのも、平安朝に歌われたのと変わらないが、私の頭の中では去年の11月の末ごろから、鶯がさえずっていた。

それは、駅頭で手にした旅学パンフレット「名酒の里 45選」を開いてみると、春鶯囀なる酒が載っていたからである。そのときは「鶯」の文字が目についたのと、「春の鶯のさえずりか、京の和菓子のような酒名だな」と思っただけで先に進んでいた。後日気になって再びそこを見ると〔歌人・与謝野晶子が訪れた蔵〕とPRしてある。「牧水ならそれとなくわかるが、歌人・晶子となると、PRをするそれなりの理由があるのでは」と考え、思いついたのが「源氏物語」である。口語訳のそれは「与謝野源氏」として、多くの人に知られていたし、読まれた方も多いのではな

いかと思う。

あたりを付けた巻を探して見ると、花宴の巻に“一振りゆるゆる袖を反す春鶯囀の一節を源氏も舞ったが、……以下略”とあった。

平安朝の人たちにとっては、鶯は単に鳴き声を楽しむだけでなく、曲や舞としても楽しんでいた様子が書かれている。ということで春鶯囀にたどりつくことができ、その持つ意味合いがわかった。

ここからは推察ですが、歌人・晶子が訪れたことで、酒名へと発展する何かがきつとあったのでしょうか。

参考までに、古語辞典等によれば、春鶯囀は今日の雅楽で、7世紀末ごろに大陸から伝えられた舞楽の舞の一つで、唐の高宗(在位AC650~683)が鶯の声に感動して作曲させたという。宮中では宴席などで舞われていた。



三室地区定例探鳥会



民家園周辺定例探鳥会

シンクロナイズドスイミングガモ

陶山和良 (浦和市)

水量が増えて水深が深くなったせいか、水上遊びをする人が多くなり周囲の環境が悪化したためか、最近めっきり数が少なくなった彩湖の鴨たち。でも、マガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ等の他に、カンムリカイツブリ、オオバン、バン達が代わる代わる顔を見せてくれている。

小寒の日にしては早春を思わせる、新年早々の午後のこと。

水面をなでながら餌を漁るハシビロガモと少し離れて、12羽ほどの、水中に頭を深く突っ込み、逆立ちをしている鴨たちを遠目に見つけ、オナガガモ達のグループかと、おもむろに双眼鏡を目に当てた。

オヤ！ 少々動きが違うようだ。必死に深く潜ろうとしている。尻尾と片足が水面に出て、水を蹴って、小さな水しぶきを上げている。あたかも、シンクロナイズドスイミングの如く……。

確認しようと、身を隠しながら近付いた私に気付いた鴨たちは、一斉に知らぬふりをして、遠のいて行く。胸元に小さな網目模様と上下尾筒の黒い雄。下嘴の橙色が目立つ雌。オカヨシガモ達であった。

先入観にとらわれず、どんな野鳥達にも感謝の気持ちを込めて観させてもらうことの大切さを、あらためて痛感した次第である。

シラコラム

[シラコバト+コラムの造語]

今年から二年がかりで県の鳥であるシラコバトの分布調査を行うことになりました。

この際もっとシラコバトのことを知り、また親しもうと思い、「シラコバト見つけ隊」に参加しました。幸い私の住む騎西町では、ごく普通に観察することが出来ます。

さて皆さん、シラコバトの鳴き声を聞いたことがありますか。シラコバトは二つの鳴き方をします。

「ポポーポ」「ポポーポ」と一小節ずつ区切って4～8回位(12回の時もありました)。その数は平均でキジバトより1～2回少ないと私は思っています。

もう一つは、「クゥー」と一声の鳴き方。シラコバトが止まっているところでこの鳴き声を真似ると、シラコバトは首を左右にキョロキョロします。侵入者(鳥)が来たと勘違いするのでしょう。

県の鳥は、1種の鳥を複数の県で使っているところがかかなりあります。しかし、シラコバトを県の鳥とする事が出来るのは埼玉県だけです。皆さんももっと慣れ親しんで、可愛がってあげて下さい。

中里裕一(騎西町)

■シラコバト観察報告

- 1月1日 越谷市増林3359 5羽 田邊八州雄
- 1月1日 岩槻市東岩槻上野4丁目 4羽 中村 榮男
- 1月2日 松伏町ゆめみ野東4-2-15 18羽 田邊八州雄
- 1月3日 越谷市増林3408 1羽 田邊八州雄
- 1月3日 春日部市赤沼187養鶏場 11羽 橋口 長和
- 1月3日 松伏町大川戸1888養鶏場 2羽 橋口 長和
- 1月3日 越谷市船渡1380養鶏場 4羽 橋口 長和
- 1月6日 幸手市天神島天神社付近 2羽 徳田 潤子
- 1月6日 幸手市戸島吉野橋付近 3羽 徳田 潤子
- 1月6日 幸手市平須賀宝聖寺付近 1羽 徳田 潤子
- 1月7日 岩槻市東岩槻上野4丁目 18羽 中村 榮男
- 1月8日 岩槻市上野城北大橋北蔭養鶏場 22羽 橋口 長和

(以上、1月9日までに見つけ隊に届いた報告から)

大宮市日進町1丁目 ◇9月28日、移動中と思われるカケス2羽。10月18日、モズ♂♀各1羽、夏からいなくなっていたが戻ってきた。11月3日、冬を過ごす鳥が一斉にやって来た。アオジ、ジョウビタキ、シメ、ウグイス。トラツグミ落鳥1羽(体重162g、体長29cm)、外傷は見られなかった(森本國夫)。

戸田市道満彩湖 ◇11月3日、ヨシガモ♂3羽、アリスイ1羽。11月27日、オシドリ♂2羽♀4羽(斉藤達也)。◇11月7日、ツグミ、アカハラ、オカヨシガモ20羽、ユリカモメ、ハヤブサ(森秀夫)。

戸田市戸田公園 ◇11月7日、マミチャジナイ2羽(高橋達也)。

戸田市戸田橋付近荒川河川敷 ◇11月7日、ホオアカ1羽(高橋達也)。

川口市差間 ◇11月9日、オオタカとチョウゲンボウが大空を舞う。オオタカはカラスにしつこくモビングされていた。11月11日、東端のアシ原でアリスイ1羽、遠くのアシの上にとまっていて動かず。左下に別の鳥、ツリスガラ♂だった。ホオジロが追い飛ばして同じ場所にとまったので、大きさの違いがはっきり分かった。クイナが鳴いた(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇11月13日、林の中でアカハラ1羽。11月16日、トビ1羽、駐車場脇のフェンス裏の溝でカワセミ2羽。村国池脇の茂みでクロジ♀と思われる個体3羽。11月17日、アオゲラ♂1羽、アカゲラ1羽。元荒川の岸でイカルチドリ、イソシギが餌とりに夢中。11月22日、シロハラ2羽(鈴木紀雄)。

表紙の写真

カエデチョウ(スズメ目カエデチョウ科カエデチョウ属)

私が休みの日には必ずと言ってもいいぐらいに行っている浦和市下山口新田の第一調節池付近や川口市差間の草原では、今、オオジュリン、コジュリン、ホオアカ等とともに、カエデチョウ、ホウコウチョウ等の籠

木紀雄)。◇12月5日、体育館後方の用水路沿いの道で、色がとても美しいカワセミがじーっとしていた。一番好きな鳥であるヤマガラがすぐ目の前まで来てくれて感激。シジュウカラ5羽、カケス、カワラヒワ、ツグミ、ジョウビタキ、アカゲラ2羽(松田悟・裕子)。

岩槻市南辻元荒川 ◇11月16日、18日、慈恩寺橋周辺でユリカモメ10羽の群れの近くでセグロカモメ1羽(鈴木紀雄)。

岩槻市岩槻公園 ◇11月21日、ヒガラ2羽(藤原寛治)。

浦和市代山 ◇11月16日午前7時30分、浦和学院高校そばの雑木林からヤマガラの鳴き声(藤原寛治)。

浦和市長畑 ◇11月19日午前7時30分、サッカースタジアム建設現場付近の荒れ地でホオジロ、アオジ、カシラダカ多数(藤原寛治)。

浦和市下山口新田 ◇12月5日、民家園そばの調整池でホオジロガモ♂1羽(藤野富代)。

富士見市柳瀬川 ◇12月3日、川の中洲で羽を休めているユリカモメ26羽の群れ中にセグロカモメ1羽、羽をふくらませてじっとしていた。ダイサギ、コサギ、アオサギ、タヒバリ。カモ類の数が2~3年前に比べて大幅に少なかった(陶山和良)。



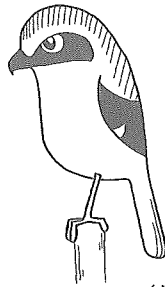
三室地区定例探鳥会

抜けの鳥も、何種類か見ることができます。

撮影：新井勇吉(川口市)

本種は、アフリカのサハラ砂漠南縁の農耕地などに生息。飼い鳥として輸入され、野生化して各地で生息しています。(編集部)

行事あんない



(何森 要)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて、「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、榎本、高(文)、立岩、島田、永野(安)、永野(京)、高(尅)、山田、今井、山野

見どころ：ついこの間、新年の挨拶を交わしたと思ったらもう如月です。今回は樹木や草本、昆虫そして鳥たちの冬越しのようすをみんなで観察しましょう。カモにも春の兆しが……。寒さ対策を充分に。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：2月6日(日)

集合：午後2時、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大崎園芸植物園行き13:33発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、前澤、新井(勇)

見どころ：立春が過ぎて、季節には敏感な鳥たちはどのように過ごしているのでしょうか。そんな冬鳥たちをじっくりと

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

観察しましょう。朝の冷氣や早起きの苦手な方はぜひお出かけください。

(集合時間にご注意!!)

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：2月6日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、吉田、田中、松永

見どころ：寒さの厳しい季節ですが冬の鳥たちは元気です。水辺、アシ原、木立にいる鳥たちを見つけて元気を分けてもらいましょう。加えて、道には早くも早春の可憐な花たちがひそかに咲いて、あなたの訪れを待っています。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月11日(金・祝)

集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より、西上尾車庫行き(畔吉経由)、7:07発にて「前原」下車、徒歩約10分。

解散：午前11時ころ。

担当：浅見、大坂、高(文)、阿久沢、永野(安)、永野(京)、高(尅)、宇原、山野

見どころ：ちょっと寒いけれど気持ちの良い探鳥会。冬鳥たちを求めて散歩してみませんか。天気がよければ川沿いのサイクリング道路を歩きます。秩父の山

山もきれいですよ。上尾自然学習館もオープンしています。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月11日（金・祝）
集合：午前9時20分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。
交通：京浜東北線南浦和駅西口3番バス乗り場より、「下笹目」行き8：45発（武蔵野線武蔵浦和駅8：52通過）にて「彩湖道満グリーンパーク」下車。
担当：倉林、中村（榮）、藤掛、馬場、百瀬、有馬
見どころ：道満の釣り堀の周辺の林で、小鳥たちを探します。今年もアリスイに会えるといいですね。彩湖ではカイツブリ類とカモの仲間たちを、草原ではオオジュリン、コジュリン、空を見上げて、タカ類を探しましょう。

大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月13日（日）
集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前（土呂駅東口より徒歩5分）。
担当：工藤、藤原（寛）、森（力）、松永、日根、山口、有馬、森（秀）
見どころ：身近な場所で、身近な鳥たちをじっくり観察します。立春も過ぎました。ヒバリのさえずりや、芝川のカワセミ、オオジュリン、クイナなどにも期待しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月13日（日）
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道9：11発、または寄居8：49発に乗車。
担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋、後藤
見どころ：寒いなんて言ってもらえない。バードウォッチャーの最も楽しい季節。人は少なく、鳥は多くて見やすい。アカゲラ、アオゲラのキツツキ類とノ

スリなどのタカ類を期待。コハクチョウは今期の見納めの月。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月16日（水）
集合：午前9時20分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。
交通：京浜東北線南浦和駅西口3番バス乗り場より、「下笹目」行き8：40発（武蔵野線武蔵浦和駅8：48通過）にて「彩湖道満グリーンパーク」下車。
担当：倉林、中村（榮）、藤掛、高（文）、馬場、百瀬、有馬
見どころ：2月11日の彩湖と同じコースを歩きます。同じ鳥たちが出てくれるでしょうか？ あなたはどちらに参加されますか。もちろん両方も大歓迎。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月20日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺（周）、笠原、若林、兼元、森（力）、清水、前澤
見どころ：2000年になって、鳥たちの世界はどう変わったのでしょうか。今月は自然に対する感謝の気持ちを持つ、見沼たんぼの事を知るなど、小さな行動を起こしたいものです。そんな優しい鳥見人を鳥たちは待っています。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月20日（日）
集合：午前9時40分、森林公園南入り口前。
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9：17発バスに乗車、終点下車。
費用：入園料400円（子供80円）
担当：島田、佐久間、岡安、内藤、藤掛、青山、喜多、後藤
見どころ：枯れ葉のじゅうたんを踏みながら

歩く2月が、ここのベストシーズンです。カシラダカ、アオジ、ルリビタキなどの里山の鳥や、山田大沼ではカモを観察しましょう。

深谷市・仙元山公園探鳥会

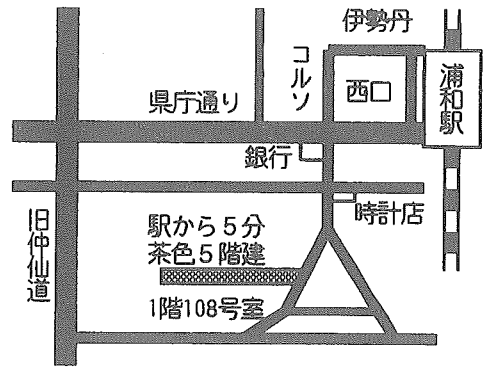
期日：2月20日（日）
 集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。
 担当：小池、小淵、小野沢、倉崎、堀
 見どころ：去年はトラツグミとルリビタキで賑わいました。その他にもクイタダキ・ピンズイ・シロハラといった冬鳥も集合しています。身近な里山ウォッチングを楽しみませんか。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月26日（土）
 集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越えた右側）。
 交通：東武東上線高坂駅西口より、東武バス鳩山ニュータウン行き8：58、9：08発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5分（バス進行方向へ峠を越えます）。
 担当：榎本、岡安、藤掛、志村、立岩、後藤、吉田、林（久）
 見どころ：谷を見おろす尾根をつたい、野辺の小道をたどり、岩殿観音の境内に出る変化にとんだ散策コース。身近な自然を再発見……。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月26日（土）午後1時～2時ごろ
 会場：支部事務局108号室
 案内：「春よ来い、早く来い……」と童謡の歌詞のとおり、暖かい日が早く来てほしい今日のごろではないでしょうか。日足も段々と長くなり、梅の花見の便りもしきりです。でも2月は寒さがぶり返し最低気温が観測されたりする季節です。冬と春が同居して、風邪をひいたり体調を崩しやすい月ですね。袋づめにご協力の際には、その辺を充分に気を付けてお出かけください。



富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月27日（日）
 集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口
 担当：高草木、佐久間、石井（幸）、志村、中村（治）、神場、中村（祐）、荒木、下川、中村（隆）
 見どころ：わずかに残ったたんぼと泳ぐカモの姿をゆっくりと見ながら、土手の新芽にも目をやみましょう。中洲のタシギとジョウビタキ、そして旅立つ前のタゲリを見送ります。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月27日（日）
 集合：午前8時30分、東武野田線岩槻駅前。
 または午前9時15分、文化公園駐車場（国道16号側）。
 交通：東武野田線大宮8：11発、または春日部8：16発大宮行きにて岩槻下車。集合後バスで現地へ。
 担当：中村（榮）、中島（康）、吉安、橋口、玉井、入山、松永、田中、長嶋
 見どころ：前回は強風のため冬鳥の出現がもう少しというところで残念でした。今度はアオジ、アカハラやアリスイたちも皆さんをきっと待っています。川辺なので寒さ対策を忘れずに。

◆3月の行事予定

3月5日（日）寄居町・玉淀河原探鳥会
 大宮市・染谷見沼自然公園探鳥会

行事報告

11月21日(日) 浦和市 三室地区

参加: 88人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ
ヒドリガモ オオタカ キジ バン タカブシギ
イソシギ タシギ ユリカモメ ウミネコ キジ
バト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (41種) 下見のとき、芝川の大道橋
あたりの干潟に近頃珍しいタカブシギ出現。バン、
ユリカモメなどたくさんいる。見沼田圃を越えて、
片柳の桃畑でカラ類の混群を見た。そんなわけで、
初めてのコースを歩いたのだ。参加者も多く、鳥
も久しぶりに41種出現して、大成功。やっぱり三
室の探鳥会は楽しい(これがうれしいリーダーな
のである)。 (楠見邦博)

11月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 16人

荒木恒夫、有馬雅男、海老原教子、海老原美夫、
尾崎甲四郎、神場真文、倉林宗太郎、志村佐治、
下田佳子、下田隼太郎、中村治、納谷美月、福井
昭子、増尾隆、百瀬修、山野庸子

11月28日(日) 野田市 清水公園

参加: 75人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ
マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒド
リガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ
オオタカ イカルチドリ キジバト カワセミ
コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ
ジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケ
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 紅

葉の最盛期で、カメラマン達の露払いのためか、
心配された出足だった。でも、途中遊水池ではカ
ワセミ、そして上空にオオタカが出現。全員時間
をかけて見ることができ、大満足の様子だった。
前日からヒシクイ2羽出現の情報があり、期待し
たが、飛び立った後で残念だった。(中村榮男)

11月28日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 47人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガ
モ ホシハジロ キンクロハジロ トビ オオタ
カ バン キジバト アカゲラ コゲラ ハクセ
キレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (36種) 開始前よりジョ
ウビタキが顔を出してくれた。途中、トビ1羽
が出現(初認)。続いてオオタカも現われ、場を
盛り上げてくれた。お目当ての雑木林では、サバ
イバルゲームの最中で、全くの興ざめ。見沼自然
公園の池では、個体数は少ないもののカモ6種を
数え、いつもながら身近でじっくりと基本観察が
できた。快晴のおだやかな天候の中、まだ残っ
ている里の紅葉を皆で楽しんだ。(工藤洋三)

11月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサ
ギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オカ
ヨシガモ ハシビロガモ トビ オオタカ チョ
ウゲンボウ コジュケイ バン イカルチドリ
イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ
ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ

オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 広瀬橋下に♂のオシドリが1羽。以前下見のときに1回見たことがあるが、探鳥会では初記録。86種目。意外な訪問客に皆大喜び。しかし、よく見ると翼を傷めているらしい。無事仲間のもとへ戻れるか心配だ。(長谷部謙二)

12月4日(土) 蓮田市 黒浜沼
参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ ツミ コジュケイ キジ クイナバン イカルチドリ タシギ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 12月とは思えないおだやかな暖かさ。最初の芦原で、マラソン大会の中学生を応援しながら、多くの鳥を発見して楽しんだ。今回は、初コースの堀の内と周囲の屋敷林を回った後、上沼で水鳥を見て、参加者数を超える種類を見ることができた。(玉井正晴)

12月5日(日) 北本市 石戸宿
参加: 62人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ コジュケイバン キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス (36種) 曇り空のスタートだったが、途中から晴れて暖かくなってきた。ふれあい橋を渡ると、高い梢にシメがいて、ほとんどの人が見られた。高尾の池では、定番のマガモ、コガモ、カイツブリ。今年はなぜかツグミの数がやたらと多い。桜堤を回ってから、葦原の灌木にベニマシコ♀が出て、皆満足のような様子だった。(大坂幸男)

12月5日(日) 浦和市 民家園周辺
参加: 41人 天気: 晴時々曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ コジュケイバン タゲリ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 心配していた天候の悪化もなく、途中途中で出会えた鳥たちに歓声を上げながらのんびり歩くことができた。特にスタート直後のチョウゲンボウや、何度も顔を見せてくれたカワセミやジョウビタキ、ラッキーな人はタゲリにも出会えたようだ。でも、芝川は毎年、毎回、水辺の鳥たちが減っていくようで、心配だなあ。(伊藤芳晴)

12月12日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 34人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 99年最後の月、珍しく大麻生リーダー全員が参加。快晴だが冷たい風が強く、鳥の動きも少ない。ゴルフ場内の木の下に木の実をついばむシメの大群が見られ、全員驚嘆。明戸堰周りのカモ類は、上流の白鳥の餌に誘われて出払っていたが、木に休むノスリや久々にカワセミが姿を見せ、皆を楽しませてくれた。(和田康男)



モズ (海老原美夫)

連絡 中長

●「干潟を守る日2000」キャンペーンに賛同
諫早干潟緊急対策本部などが中心となった呼びかけで、諫早湾閉め切りの日である4月14日を「干潟を守る日」とすることが、1998年春に宣言されました。

今年も「干潟を守る日2000」キャンペーンとして、参加団体が全国各地で関連イベントを開催し、関連イベントのない団体は、賛同団体として登録します。

12月の役員会で協議した結果、既に決定されていた4月の行事予定では、関連させることが出来る行事がありませんので、当支部としては賛同団体としての登録を申込み、賛同の意思をより明確にする為に、賛助金の支出を決定しました。

干潟を守る日実行委員会からは、賛同団体としての登録と、賛助金の受け入れを承諾する連絡がありました。金額については、次の役員会で決定します。

●「丸の内さえずり館」に『しらこぼと』

昨年10月に本部企画部と法人会員である三菱地所(株)との共同企画で開設された「丸の内さえずり館」は、1日平均30人程の来館者があり、館主催の探鳥会も開催されるようになりました。

本格的なバードウォッチングを希望される来館者の為に、各支部の支部報を閲覧できるように設置したいとの要請により、『しらこぼと』の閲覧設置を承諾しました。

●新聞各紙への協力

本誌12月号で報告したカラカラにつき、その後坂東大橋付近でも目撃情報があり、イヌワシ若鳥と誤認される可能性が考えられた事から新聞各紙に呼びかけたところ、12月11日付け毎日新聞朝刊に掲載されました。

東京新聞埼玉支局の依頼を受けて、三室地区に関する写真と情報を提供し、同紙1月8日付け「出かけま専科」欄で、1都6県の探鳥地のひとつとして、定例探鳥会の情報と共に掲載されました。

●2月の事務局 土曜と日曜の予定

- 5日(土) 普及部会議。
- 6日(日) シラコバト見つけ隊打ち合わせ。
- 12日(土) 編集会議、研究部会議。
- 19日(土) 校正作業。
- 20日(日) 役員会議。
- 26日(土) 袋づめの会。

●会員数は

1月5日現在3,014人です。

活動報告

12月5日(日) シラコバト見つけ隊打ち合わせ。

12月11日(土) 編集会議。研究部会議。

12月18日(土) 1月号校正作業(海老原美夫、大坂幸男)。

12月19日(日) 役員会議(司会:高文子、各部の報告・「干潟を守る日2000」への対応・丸の内さえずり館への対応・探鳥会担当者の一部変更・その他)。



(役員会議は毎月開催、支部の意思決定機関として、様々な議論を交わします)

12月27日(月) 1月号を郵便局に運び、発送作業(倉林宗太郎)。

編集後記

最近人に勧められてインラインローラースケートを始めた。風を切ってすべるのは爽快だ。それに、持久力+脚力アップの効果と、上達する楽しみがあって、若い人に独占させるのはもったいない。春には20kmのロングランに挑戦するぞ! (森本51)

『しらこぼと』2000年2月号(第190号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用